

ロータリーの心を考える時、創始者ポール・ハリスが何故ロータリーを創立したのかを学ぶ必要があります。

ハリスは第2次世界大戦前、中国に行く途中、日本に立ち寄りました。そして日本のロータリアンから大歓迎を受けました。多くの質問があった中に「貴方は何故ロータリーを始めたのですか?」という問いに彼は「寂しかったから」と答えたというのは有名な話であります。

文献によりますと、ポール・ハリスは家庭的には恵まれていませんでした。父親が仕事に失敗し、幼い頃から祖父母に育てられますが祖父母に可愛がられ、多くの友を得、素晴らしい自然の中で育ちます。～やがて弁護士になり、故郷を遠く離れたシカゴで弁護士を開業します。

然し、親類や友人から遠く離れ、結婚もしておらず、大変寂しい思いをしていました。彼の表現によると「Desperately lonely 絶望的に寂しかった」と言っています。特に週末は寂しかったとの述懐があります。

彼はある日、シカゴ郊外の弁護士仲間を訪ねます。そして二人で散歩をしますが、その友人は町で会う人ごとに、ファーストネームで呼び合うのです。

その光景に出会って、彼はかつての、ウオリングフォードを思い出すのでした。そこでは皆がファーストネーム(ニックネーム)で呼び合うのが習慣だったからです。

広いシカゴの都会砂漠で、田舎から出てきて、友人がなく寂しい思いをしている者が大勢いるに違いないと思って、そういう人達でクラブを作ったら素晴らしいのではないかと考えたのでした。

そして、数年後の1905年に最初のロータリークラブを結成したのでした。

～～ロータリーが友情・親睦だけの団体であったとしたら、今日の発展は無かったでしょう。しかし、これほど友情・親睦を大事にする団体であったからこそ今の大発展があったのではないのでしょうか。

友情・親睦を大事にする～それは日本の初期ロータリークラブにも導入されました。財界のトップが入っていてお互いがあだ名で呼んでいたという記録があるというのです。例えば阪急電鉄の小林一三さんはあだ名が「ペラ」だったそうです。小林さんが宝塚で少女歌劇を始めましたが、少女オペラからきたあだ名だったそうです。その影響は日本JC(青年会議所)でも当たり前の世界で、私は多く経験してきました。呼び方が友情の全てではありませんが。

「友情と親睦」は原始ロータリーの原点だったのです。

心としての「寛容」があります。「寛容」については次回に述べます。

(ロータリーの源流より)